



学校だより

12月

令和5年11月29日

横浜市立本宿小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/honjuku/>

『人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします』

(『アメリカインディアンの教え』より)

校長 松比良 聡夫



街中の木々が紅葉し、短い秋の終わりと、冬の到来を感じさせます。夏休みが明けてから3か月間が経ち、気づいてみると2023年も残すところ1か月となりました。12月は人権月間です。

先日の授業参観には多くの保護者の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。10月のスポーツフェスティバルでも、大勢の皆様にあいさつをいただき、子どもたちもとても嬉しそうでした。ありがとうございました。

11月に子どもたちが「あいさつ週間」を計画・実施しました。『はっきりとした声で、笑顔で、相手の目を見て』あいさつをすると、葉っぱのカードがもらえます。集めた葉っぱを、大きなメタセコイアの絵に貼り付けて、『全校のみんなでメタセコイアの木を育てよう』という活動でした。

あいさつ週間には学校中にあいさつの声が響き渡り、笑顔もあふれて学校がとても明るくなりました。嬉しいことに、あいさつ週間が終わってからもあいさつがよくできるようになり、登校時にもあいさつが増えました。

以前から子どもたちは校内ですれちがうときなど、明るくあいさつをしたり、話しかけたりしています。休み時間や放課後には、校庭で遊んでいる子どもたちが「校長先生!」と外から声をかけてくれることもあります。先日の登校時にはある男の子が、「学校の近くの家で、おばあさんが洗濯物を干すのが大変そうだから、手伝ったらどうかな?」と心配してくれるなど、本宿小学校の子どもたちはとても心が優しいと感じる毎日です。日ごろからご家族の愛情をたっぷり受けているから、優しさが育っているのでしょう。人を信頼して、誰にでもフレンドリーな温かい子どもたちだと思います。

東海大学児童教育学科 准教授の寶来先生のご講演で、『安心感が、子どもたちの意欲や主体性、学びに向かう力を引き出すことにつながる』『それには、まず大人が広い心、ゆったりした心で子どもたちと接することが大切』『肯定的な子ども観、共感のまなざし、そして、笑顔』『どれだけ、子どもの立場に立てるか』等、教えていただきました。本宿小の子どもたちは、まさにこのような環境で育っているのだと実感しました。

人権月間にあたり、学校でも子どもたちが安心して自己を発揮できるように、私たち教職員も共感的に傾聴し、寄り添っていくよう、改めて確認いたします。家庭と地域と学校とで温かく子どもたちを包みながら、見守り育てていきたいと思えます。表題の言葉は、私が教師になったばかりのころに出会った本に書かれています。ご家庭で認められている子どもたちだからこそ、『自分を大事に』でき、『他の人も大事に』できているのだと思えます。2023年もありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げます。